

臨床研究・調査の概要

研究課題名	富山医療圏における小児医療集約化の影響と課題
研究の概要	【研究の目的・意義】 少子化に伴い小児患者数は減少し、また予防接種の普及、医療の進歩による入院を要する急性期疾患の減少など、小児の疾病構造に変化がみられている。我が国は諸外国と比較し、多くの病院に少数の医師を配置しており、結果長時間労働が顕著になり、特に若手医師の疲労度は高く、仕事の満足度が低い群では離職意思が大きいことが報告されている。 そこで日本小児科学会は労働条件の改善と小児医療提供体制の改革を目的として、2004年に「小児医療提供体制の改革ビジョン」で、身近な外来医療の提供は継続しつつ、入院医療提供体制の集約化などを提言している。 しかし、集約化は地域によっては近隣の小児科がなくなる可能性があり、地域の実情に沿って医療計画を策定する必要がある。 富山医療圏では、初期救急として富山市・医師会急患センターが、第2次救急として主に富山大学附属病院、富山県立中央病院、富山赤十字病院、済生会富山病院、富山市民病院が病院群輪番制を担っていた。 その後、2021年4月に富山市・医師会急患センターの診療時間が短縮し、済生会富山病院小児科が廃止され、2022年4月に病院群輪番制が小児のみ富山赤十字病院を除く3病院に集約された。 DPCデータ、小児科病院勤務医師数調査などで病院小児科の集約化が徐々に進んでいることが報告されている。しかしながら、実際に集約化が労働条件の改善、効率的な小児医療提供体制につながったかを検証する報告は少ない。今回我々は、富山医療圏での集約化事例から、集約化の影響と今後の課題について検討する。 【研究対象者】 病院群輪番病院の集約前5年間（2017年4月から2022年3月）および集約後5年間（2022年4月から2027年3月）に当院を受診した15歳以下の患者 【研究の方法】※研究期間を含めて記載 病院群輪番病院の集約前5年間（2017年4月から2022年3月）および集約後5年間（2022年4月から2027年3月）の介入を伴わない縦断研究である。 上記期間に当院を受診した15歳以下の患者氏名、ID等の個人の特定が可能な情報（対象者一覧表）を医事課が紙媒体で抽出する。対象者一覧表を元に個人情報を含まない担当科、診療内容等を診

	療録から転記した情報（対象者情報）から患者数、受診時間、小児科以外の担当科呼び出しの有無などを評価する。
研究資料の入手・閲覧	研究資料については、研究対象者または当院が認める親族等の方からのご要望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で提供いたします。 研究資料の入手・閲覧を希望される方は、次へご連絡ください 富山市民病院 診療科：小児科 役職：部長 氏名：和田 拓也 TEL 076-422-1112（代表） FAX 076-422-1371 e-mail jimukyoku@tch.toyama.toyama.jp
個人情報の開示に係る 手続	富山市個人情報保護条例に規定する手続きに従い、適切に対応いたします。
相談等への対応	研究対象者からの除外を希望される場合、その他当該研究に関する相談等については、関係資料の入手・閲覧と同じ連絡先にご連絡ください。